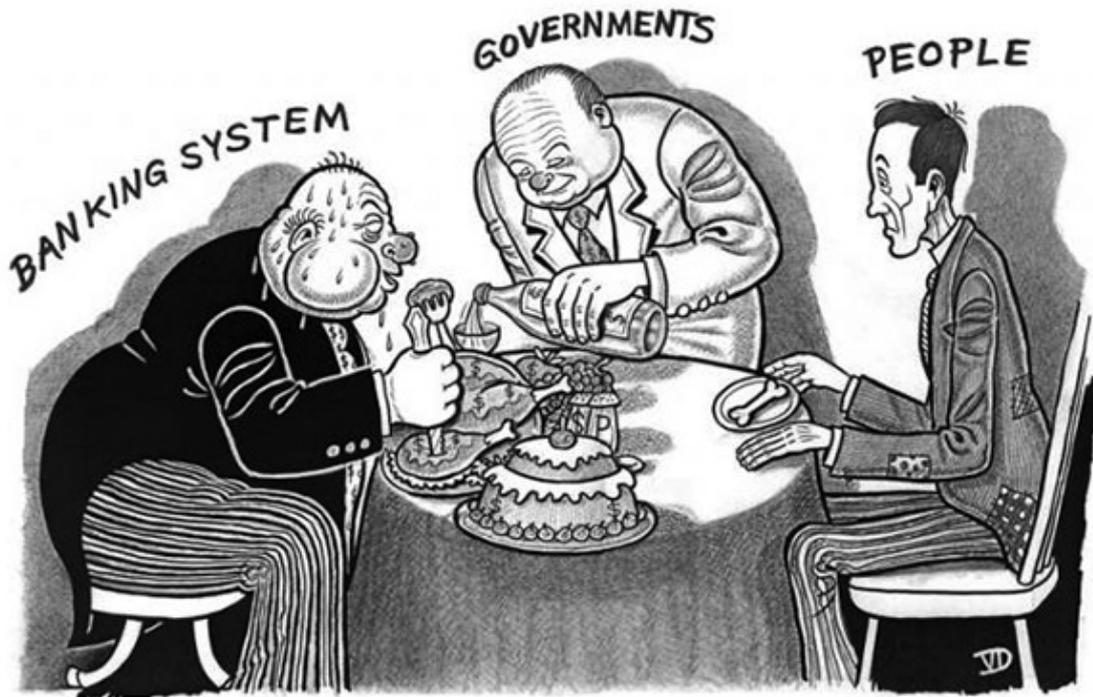


Who are our rulers?
(誰が私たちの支配者なのか)



世界銀行の内部告発者が、誰が、どのように世界をコントロールしているのかを明らかにした。

私たちの支配者は中央銀行で、それはお金や債務を作り上げる力を持っているのだ。

カレン・ヒュードはイェール大学のロースクールを卒業し、世界銀行の法務部に20年以上も勤めていました。もっとはっきり言えば、世界銀行内の頹廃を内部告発して解雇された時、彼女は首席弁護士だったのです。

彼女は、世界中の支配者達がどのように世界をコントロールするのかをまさに良く見ることができるという、独特の立場にいました。そして彼女が今告発している情報は、驚くほどすさまじいものです。

ヒュードの告発によりますと、支配者達は、この地球上を支配する金融機関や巨大企業を中心核だそうです。

現在、仲間の告発者と共に、ヒュードはその秘密を暴き、この汚れた世界に終わりを与える決意を固めました。彼女はその成功に自信を持っています。

ヒュードはスイスのチューリッヒにある、チューリッヒ工科大学の研究者チームによって2011年に行われた、衝撃的な調査を例に挙げます。

その調査とは、全世界におよぶ 3700 万の企業と投資家たちとの関係を調べたものです。そこで、彼らは、わずか 147 という数のとても密な巨大企業が、世界経済の 40%をコントロールしていることを発見しました。ヒュードはこの少数グループの実体についてこう指摘します。その実体のほとんどは金融機関で、特に中央銀行だと。そして 40%だけをコントロールしているのではなく、その裏では世界の経済に多大な影響を及ぼしていることになると。彼女は、「世界の資源はこのグループによって支配され続けています。」と説明しました。「邪悪な強奪者たち」がメディアも同様に支配してきたのだと付け加えて。「彼らが支配することは許されているのです。」と。

トップ 20 の企業には、バークレイズや、JP モルガン、ゴールドマンサックスが含まれました。

これらの金融大企業は、ヒュードによりますと、文字通り全世界のお金の作成と流れをコントロールしているのだそうです。彼らは、実質的にこの地球上のあらゆる国の財源をコントロールする、選ばれたわけでもなく、責任すら負わなくてもよい世界銀行、国際通貨基金、そして連邦準備制度のような私有中央銀行（連邦準備制度が民間の銀行だとは誰も認識していません。）をもコントロールします。

このシステムのピラミッドの頂点にいるのは国際決済銀行で、それは中央銀行の中の中央銀行にあたります。国際決済銀行はスイスのバーゼルに本部を、そして香港とメキシコシティに支店を置きます。それは本質的には選ばれてもなく、責任を負わなくてもいい、免税され国家法からも免除される世界の中央銀行なのです。ウィキペディアですら「どの国の政府に対しても責任を負わなくてよい」と認めています。国際決済銀行は、もともとは第二次世界大戦中のナチのお金のロンダリング（洗浄）をするためにありました。しかしこの頃の、国際決済銀行の主な目的は、中心的に計画された世界の金融システムをガイド、そして指示することです。今日、世界 58 ヶ国の中央銀行が、国際決済銀行に属しています。そしてそれはどんな政治家がアメリカの次年度の経済（ついでに他の国の経済も）を動かすよりも、もっと強力なのです。2 ヶ月ごとに、世界中の中央銀行のバンカーたちは「グローバル・エコノミー・ミーティング」のために集まります。そのミーティングでは、地球上にいる全ての男、女、そして子どもたちに影響することが決められます。そして私たちの誰もがそのミーティングで何が起きているかには意見も言えません。国際決済銀行は世界の支配者達によって設立された組織で、その支配者達の利益のために操作され、世界の一本化された経済のシステムを支える重要な礎石の一つとされています。

このシステムは偶然によってできたものではありません。はっきり言えば、世界中の金融の資本家たちは、とても長い時間をかけてこのシステムを発展させてきたのです。

その狙いは：各国の政治のシステムと世界の経済を一個人の手で支配し、世界の金融のシステムをコントロールするということです。それ以外には有り得ないのです。このシステムは、世界中でグループとなっている中央銀行

が、頻繁に行う私的ミーティングや会議での密約による、封建制度のようなものによってコントロールされていました。このシステムのトップは、スイスのバーゼルにある、国際決済銀行だとされていました。国際決済銀行は、民間銀行で、自身も民間企業である世界の中央銀行によって所有され、コントロールされていました。

そしてそれがまさに今日私たちの世界にいる、私たちの支配者なのです。

「ネオ封建制度（ネオフューダリズム）」というシステムが私たちにはあり、そのシステムの中で、私たちの全てと政府は、債務の奴隷となっているのです。このシステムは中央銀行と国際決済銀行によって統治されています。そして私たちの手の中にある世界の資産を、計画的に彼らの手の中に送り込むのです。

しかしほとんどの人たちはこんなことが起きているとは知りもしません。なぜならば世界の支配者達は、私たちが見聞きし考えるもの全てをも所有し、コントロールしているからです。今日、たったの6つの巨大なメディア企業が、アメリカで放送されるニュースやテレビ番組の90%以上をコントロールしています。

これが、カレン・ヒュードが暴こうとしている陰湿なシステムです。

私はこの情報をマイケル・スナイダーの記事から多少直接的に引用しました。

私はその記事を編集しました。そうすることによって、原文がより明確になりました。私は原文にある「エリート」という単語を削除しました。記事の文頭は「世界のエリートがどのように世界を支配するか」でした。私は、もしこの「エリート」が世界を支配するならば、どうして単純に「エリート」を支配者と呼べないのかしらと思いました。そうすることで誰が私たちと関わっているかということが絶対的に明らかになります。この記事を読み進めていった中で、私はエリートという部分を支配者に置き換えました。

私は「エリート」という言葉を誤用することに反対ですので、その言葉を使いません。エリートの本当の意味は、最高の、選ばれた部分、であり、その語源はラテン語の選ぶと同じ意味です。過去に置いては、敬意を払われ、特権を持たされたグループの人たちのことを指していました。そういうわけで、この特権階級はメリットと大衆の承認のもと存在していたわけです。この頃では、エリートは本来とは反対の意味になっているようで、どんな特権階級も悪く、それゆえにエリートは悪いものであると考えられています。私はその意見には賛成しません：部族の年長者たちは当然にエリートです。また、知的なエリートもいますし、古代中国の官僚たちはエリートでした。この中国の官僚たちは、仕事を得る前にとっても難しい試験に合格し、彼らがきちんと教養を身につけていることを示さなければなりませんでした。

この世界の金融システムについてもう一度整理し、これが本当に何を意味するのか調べていきましょう。

「ネオ封建制度（ネオフェューダリズム）」というシステムが私たちにはあり、そのシステムの中で、私たち全てと政府は、債務の奴隷となっているのです。このシステムは中央銀行と国際決済銀行によって統治されています。そして私たちの手の中にある世界の資産を、計画的に彼らの手の中に送り込むのです。

彼らは、法廷不換紙幣と呼ばれる、お金を「刷る」行為によってこれを成り立たせています。

債務上で機能しているこのシステムが、崩壊上でも機能することは明らかです。

ヒュードは、支配者達が世界の資源を支配していると指摘します。世界の資源を支配するとは、土壌の枯渇や、モンサントのような大きな会社が不正行為を行っているように、食物を含む有限な資源ももちろん支配されているということです。

支配者達は世界の限られた資源を使い果たしているのです。そして地球上の生命に退化と汚染を与えて殺しています。債務と崩壊！

Climate Revolution は戦ってこの支配者達を倒します：



このシステムを続けるために、債務も増え続けなければならないのです。しかしながら、このシステムは現在ピークの状態で作動されていて、実際にピークに達した兆しがあります。投資家たちからの警告を掲載した、最近のファイナンシャルタイムズの記事を引用して説明しましょう。その記事で投資家たちは政府に化石燃料産業を支持すべきだと警告しています。（化石燃料には限りがあるので、より高くなります。一方で、無限で再利用可能な燃料だと、それゆえに最高に安くなります。）そうしなければ発電所は閉鎖し、投資の機会がなくなってしまうのです。この記事は、いかに **Climate Revolution**（反フラッキング運動など）がこの限りある支配的な経済システム（債務と崩壊）を脅かしているかということを表しています。このシステムは今や緊迫状態にあるのです。

はっきり言います、化石燃料産業は今や緊迫状態にあるのです。ビル・マッキベンが、彼の素晴らしい記事、「Do the Math」の中でこのことを暴いています。化石燃料企業は地面の中、さらには現在の科学技術を持ってしてもはかり知ることができない広大な部分までを含め、その中にあるものを基準に資産を示します。これが投資への大きな見返りを信じて止まない貪欲な投資

家たちを惹き付けるのです。もし私たちが、今まで通りにサウジアラビアのような国で簡単にとれる燃料だけを使い切ってしまうならば、気候の変化にはもはや手も付けられなくなってしまおうでしょう。



これらの企業が、この得難い資産を引き出す前に、私たちの誰もが死んでいることでしょう。しかし彼らは待てないのです。彼らは一同燃料（他でより多く売るために安く売ります）を北極（彼らを止めるか、私たちが北極を手に入れるかしないと）から、タールサンド（350のORGは何とかパイプラインに歯止めをかけることができました）から、フラッキング（フラッキングはアメリカではピークに達しています）から得るために競い合っています。

債務上で機能するシステムは、支配者達に資産を生み出します。（アメリカには16.7兆ドルの負債があります。）

例：銀行救済「法廷不換紙幣」は法令により作られるお金のことで、中央銀行はもはやお金を刷る必要がありません。中央銀行は、「そこに1兆ドル置いておくか！」そしてボタンを押す、というようにコンピューターのアカウントにただ入力しさえすればいいだけです。別名を「量的金融緩和政策」

とも言います。これが、中央銀行が債務不履行に陥った銀行にしてきたことです。この法廷不換紙幣は、今や債務で、納税者に負担をかけています。納税者とは、すなわち、まだ生まれてもいない赤ん坊たちの首にも、政府が中央銀行に未来の納税者のお金から返済すると約束した債務がぶらさがっていることになるのです。

これらの未来の税金は、実質資産を作った仕事から搾取されることになるでしょう。そして現在のシステムのもとで、実質資産を作るということは、有限資源を継続して消耗し続けていくことに大きく依存しています。（財政難から一時的に救い出された銀行は、ただ自分たちの仕事をしているだけです。）そうやって最後には、何もない所から生み出したお金を返済するために、「実質資産」が中央銀行に与えられるのです。

例：農場経営者たちの倒産（事実は「Food Inc.(フード・インク)」という映画を見ると理解できます。）アメリカでは、農場経営者たちは長い間農業と関係する大企業と契約を結んできました。銀行は彼らにお金を貸します。そしてその大企業を満足させるために、農場経営者は工場式農場方法という手法を装備しなければならず、彼らが飼育する動物に、非常に過剰生産されたトウモロコシを食べさせます。

このシステムは、極めて能率が悪く、動物が死に追いやられたり、またはその動物を人間が食す事によって人にもうつる病気を引き起こしたりします。この機械やシステムの装備費は、農場経営者の利益とは全く釣り合いがとれません。農場経営者は、この機械装備のために常に銀行からお金を借りなければなりません。一般的には農場経営者は年間にして2万ドルの利益が上がるそうですが、銀行には2億ドルもの借金が残るそうです。農場経営者は絶望的なのです。

何とかしないと！この手順により、銀行は農場や土地（これは資産表には「実質資産」として計上します。）を手に入れ始めます。

農場経営者が借り入れたお金の全ては、疑いもなく最終的には中央銀行が発行する法廷不換紙幣で、「実質資産」は彼らの手の中で終わりとなりますのです。

- ・ 不正を告発する人たちの重要性。
- ・ 債務を作り出すという意味の、法廷不換紙幣の発行が、この茶番を作っている。
- ・ 政治も繋がっている。政治家は支配者達を支持し、支配者達に巧みに操られている。

なぜ支配者達はこのようなことをするのでしょう。なぜ彼らは全てを所有したがるのでしょう。答えは一つです。それは彼らが気違いだからです。彼らは権力が欲しいのです。生死をも越えた権力が。オリンポス山の上に座った神々が、巨大な**モノポリーゲーム**をしているのです。

言い忘れたことがあります。（とても大事なことです！）銀行が作り出す巨大な資産の真の出所は利息です。（だから農場経営者たちはお金を借り続けなければならないのです。そしてそのことがサブプライムローン事件を説明付けてくれます。）たとえそのお金が返済されたとしても、利息は取り壊されることなく残り、長期に渡って積み上がっていくのです。